

平成 26 年度  
事業報告書  
(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

社会福祉法人  
ひらか福祉会

## 法人理念

明るく、楽しく、生き生きと自分らしく生きるお手伝いをさせていただき、居心地の良い「いえ」を共に創ります。

# 第1部 社会福祉法人ひらか福社会事業報告

## 1. 法人運営報告

### 魅力ある職場作りを進め、サービスの充実を図る。

職員にとって魅力ある職場が利用者さまにとって魅力ある施設となるよう、働くしくみ作りを構築することでサービスの充実に結びつくことを平成26年度の基本方針として行った。「成長シート」を各職種別に作成し、自分の頑張りが評価されるしくみを作ることができた。また、あやめ苑とかがり火の両施設長の営業協力体制により、目標稼働率の95%にかなり近い数字を記録することができた。収入では3億2,310万円と前年度比107%もの実績を作ることができた。支出では2億7,016万円とこちらは前年度比100%であり、収支差額は5,293万円と前年度比170%（2,200万円増）もの実績を残すことができた。今後、ひらか福社会としてさらに地域の利用者さまと働く職員にとって魅力ある法人とし、介護保険法改正による報酬ダウンに負けない運営を実現したい。

## 2. 経営報告

### I. あやめ苑のトータル年間稼働率95%以上の達成

月	特養	ショートステイ	合計
4月	92.52%	91.67%	93.64%
5月	89.65%	97.93%	92.34%
6月	91.49%	87.14%	90.07%
7月	96.55%	85.48%	93.09%
8月	100.00%	83.64%	94.67%
9月	99.54%	86.67%	95.34%

10月	98.10%	94.01%	96.54%
11月	100.00%	87.62%	95.96%
12月	100.00%	95.16%	98.40%
1月	96.20%	93.09%	95.20%
2月	94.33%	90.56%	94.19%
3月	96.55%	92.63%	95.27%
年間	96.39%	90.41%	94.46%

Ⅱ. ケアプランセンターかがり火の年間利用者担当率 95%以上の達成

月	新規人数	契約解除人数	担当人数	担当率
4月	1人	3人	23人	30.26%
5月	4人	2人	25人	32.89%
6月	3人	0人	28人	36.84%
7月	4人	1人	31人	40.79%
8月	3人	2人	32人	42.11%
9月	2人	0人	34人	44.74%
10月	1人	1人	34人	44.74%
11月	4人	1人	37人	48.68%
12月	2人	4人	35人	46.05%
1月	3人	1人	37人	48.68%
2月	2人	1人	38人	50.00%
3月	4人	4人	38人	50.00%
年間	33人	20人	32.66人	42.97%

Ⅲ. ショートステイかがり火の年間稼働率 95%以上の達成

月	ショートステイ	合計
4月	92.56%	92.56%
5月	90.43%	90.43%
6月	95.22%	95.22%
7月	89.14%	89.14%
8月	89.68%	89.68%
9月	91.44%	91.44%
10月	92.90%	92.90%
11月	95.00%	95.00%
12月	93.23%	93.23%

1月	95.38%	95.38%
2月	95.48%	95.48%
3月	87.85%	87.85%
年間	92.36%	92.36%

### 3. 重点事業目標

#### I. 財務目標

- ・あやめ苑、かがり火相互のショートステイ空室調整による稼働率及び収入の安定

ケアプランセンターかがり火の職員が担当する利用者さまに関してあやめ苑、かがり火双方のショートステイを利用する場合もあり、空室調整に役立った。今後もお互いの空室をカバーできるように情報交換を密に行っていききたい。

#### II. 組織目標

- ・他施設見学研修を行い、組織体制の構築

あやめ苑において、特養さくら（横手市）、特養花むつみ（横手市）、特養いさみが岡（湯沢市）の見学研修を行った。それぞれ同じユニット型の施設として具体的な取組みを学ぶ良い機会を持つことができた。同じ悩みを共有したり、より先進的なケアに触れることで今後のサービスアップに繋がる組織体制を考えるきっかけとなることができた。

- ・職員に魅力ある職場づくりのための制度や人事考課制度の整備

人事考課制度の整備として「成長シート」の作成とそのお試し運用を行うことができた。頑張った人が報われるしくみとして来期より有効に活用し、この法人で働いて良かったと思ってもらえるよう、さらにより良い制度としていきたい。

- ・あやめ苑、かがり火の合同会議による組織体制及び運営体制の強化

年度途中より「合同会議」改め「営業研修会」として施設のアピールポイントの考え方やその伝え方など営業方法について研修を行った。お陰で稼働率が目標の95%にかなり近い数字を出すことができた。今後はその営業のしくみを定着化し、地域の認知度を上げる取組みをしていきたい。

### Ⅲ. サービス目標

- ・「笑顔」と「あいさつ」を基本としたサービスの徹底

一部の部署においても年度目標としても取り組んだが、実際のサービス面においては徹底することができなかった。今一度、基本を見直し取り組んでいきたい。

- ・「食事がおいしい施設」として評判の施設となるよう職員研修及びソフト食等の介護食のこだわりを持った取り組みを行い、ホームページで情報公開していく。

栄養士の努力により食事の味についての評価は上がってきたが、ホームページへ掲載することができなかったことが悔やまれる。来年度は必ず実行することとする。

## 4. 法人運営報告

### (1) 理事会の開催

第1回理事会 5月23日	報告第1号	かがり火 管理者の名称について	—
	報告第2号	あやめ苑 施設運営状況について	—
	報告第3号	かがり火 施設運営状況について	—
	議案第1号	平成25年度ひらか福社会 事業報告について	承認
	議案第2号	平成25年度ひらか福社会 収入支出決算書について	承認
	議案第3号	ひらか福社会 就業規則の一部改正について	承認
第2回理事会 9月16日	報告第1号	あやめ苑 施設運営状況について	—
	報告第2号	かがり火 施設運営状況について	—
	報告第3号	ひらか福社会 ホームページリニューアルについて	—
	議案第1号	ひらか福社会 給与規程の一部改正について	承認
	議案第2号	ひらか福社会 准職員管理要綱の一部改正について	
	報告第3号	かがり火 運転資金借り換え契約につ	—

		いて	
	議案第 4 号	ひらか福祉会 役員の任期満了に伴う改選について	承認
第 3 回理事会 1 月 13 日	報告第 1 号	あやめ苑施設運営状況について	—
	報告第 2 号	かがり火施設運営状況について	—
	議案第 1 号	ひらか福祉会 就業規則の全面改正について	不承認
	議案第 2 号	ひらか福祉会 給与規程の全面改正について	不承認
	議案第 3 号	ひらか福祉会 人事考課規定の新設について	不承認
	議案第 4 号	ひらか福祉会 研修規定の新設について	不承認
第 4 回理事会 3 月 13 日	報告第 1 号	あやめ苑施設運営状況について	—
	報告第 2 号	かがり火施設運営状況について	—
	報告第 3 号	平成 27 年度介護報酬改訂及び社会福祉法人の制度改革について	—
	議案第 1 号	ひらか福祉会 平成 26 年度補正予算について	承認
	議案第 2 号	ひらか福祉会 平成 26 年度本部、施設事業計画について	承認
	議案第 3 号	ひらか福祉会 平成 26 年度収入支出予算書について	承認
	議案第 4 号	ひらか福祉会 就業規則の一部改正について	承認
	議案第 5 号	ひらか福祉会 メンタルヘルス規則について	承認
	議案第 6 号	ひらか福祉会 人事考課規程の新設について	承認
	議案第 7 号	ひらか福祉会 給与規程の一部改正について	承認
	議案第 8 号	ひらか福祉会 准職員任用管理要綱の一部改正について	承認

(2) 監査の実施

監事名	監査実施日	監査項目
柴田監事	平成 27 年 5 月 15 日	法人定款第 11 条の規定に基づき、平成 26 年度事業に係る理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況
菊地監事	平成 27 年 5 月 15 日	

## 5. 検討課題事業

### デイサービスかがり火の開設事業

ショートステイかがり火やケアプランセンターかがり火の利用者さまの介護度が比較的低い方が多い状況と羽後町町内においてデイサービス施設が無いこともあり、町内にデイサービスの需要が多く見込まれる。ただし、開設に当たってはデイサービスの需要が今後どの程度続くのか様子を見て判断していきたいため、小規模の 10 人定員とし、貸家を賃貸して開設していきたい。

デイサービスの開設について羽後町福祉課との協議を何度か重ねたが、行政の見込みとして需要は薄いとの判断もあり、今回は見送ることとした。

## 第2部 特別養護老人ホームあやめ苑

### ショートステイあやめ苑 事業報告

#### 1. 重点運営方針

◎ユニットケアの原点に立ち返り、サービスの充実を図る。

昨夏のショートステイの6割台の実績を糧に、生活相談員が先頭となって稼働率を意識した施設運営に臨んだ。その結果、年間の経営目標には届かなかったが、年間を通して安定した運営ができた。人員体制は入退職によりなかなか定着しなかったが、年度終盤には人員数も確保できた。

そのような中、当初目標に対して、外出支援やユニット調理を活かして利用者さまを楽しませようと各ユニットで取り組んだ。その結果、ユニット間で取り組みにバラつきはあったが、一年間の自分たちの活動を振り返り各自の役割を認識することができたことで、ユニットごとに原点への立ち返りができたと考える。しかし、魅力ある職場環境への改善や競合他社に負けない法人の仕組みづくりについては、問題点や課題を具現化することができず、目標に対する意識の欠如がそのまま結果となった。

今後は稼働率を維持しながら、ユニットごとに個の特色を活かした運営と、施設独自の強みを活かした組織的な運営を目指していく。

#### 2. 経営報告

##### I. 特養、ショートステイあやめ苑の年間稼働率 95%以上の達成

平成26年度の年間稼働率は、特養 96.39%、ショートステイ 90.41%、あやめ苑全体では 94.46%だった。昨年に比べ、稼働率に対しての職員の意識は高まった結果であり、特養では入退所のタイムラグを少なくする仕組みづくりを、ショートでは居宅との情報連携を密にすることで来期の目標達成に臨みたい。

#### 3. 各部署報告

##### I. 介護

###### (1) 特養部門

###### あやめユニット

- ①利用者様が日常生活を送る上で「楽しみ」をもてるよう支援を行う。
- ②毎月ユニット行事を計画し、ユニット調理や出前、外出支援を行う。

ほぼ毎月、ユニット調理（昼食・おやつ）や出前・外出支援を実行



できた。今後は日常生活の「楽しみ」も含めて、利用者様一人ひとりに合った支援を考えるという課題に取り組む。

#### きしょうぶユニット

- ①利用者様が自分の家だと思えるように雰囲気作りをしていく。
- ②毎月ユニット行事（調理・出前・外出）を行い支援していく。

ユニット調理（昼食・おやつ）や外出支援は適宜実行できたが、「利用者様が自身の家だと思えるような雰囲気づくり」がきちんと実行できなかった。今後は、ユニット間連携や利用者様本位の介護を課題に取り組んでいく。

#### はなしょうぶユニット

- ①私が、家族が、入居しても良いと思えるユニット作りをする。
- ②ユニットの暮らしの中で四季の変化を感じる事が出来るような工夫、毎月1・2回以上は、生花等を飾り季節を感じとって貰う。

日常業務に追われ気持ちに余裕を持って利用者様・ご家族様と接することができなかった。また、第三者目線で自分のユニットを見る余裕も欠けていた。四季を感じる暮らしの演出という面では、リーダーシップを持ってユニット職員全員が意識的に取り組むことができたため、今後も継続し、心に余裕を持ったケアに取り組んでいく。

#### 介護支援部門

- ①利用者様や家族様の思いを大切にし、かかわりをもっていく。
- ②毎月、各専門職と情報交換を行い、利用者様の「暮らし」を軸としたケアプラン作成を行う。

兼務業務となってから、業務分担の周知が徹底されず、モニタリングが不十分となった。限られた時間内での情報収集と、各専門職との連携が課題となった。今後は、各部署との連携を重点的に取り組んでいく。

## (2) ショートステイ部門

#### いちはつユニット

- ①食事の楽しみを知ってもらい活気ある生活を送ってもらえるよう支援していく。
- ②家庭菜園を行い新鮮な野菜の提供し毎月最低1回以上はユニット調理（その月の行事に合わせた季節を感じる）や出前を行なっていく。

③季節感のある食器や食卓テーブルに季節の花等を飾る。

#### かきつばたユニット

- ①利用者様の自宅と同じように生活できるよう本人のペースに合わせて援助していく。
- ②利用者様がまたあやめ苑を利用したいと思っていただけるよう援助していく。
- ③個々のレクリエーションを充実させていく。月に1回、ユニット調理や出前、外出などを支援していく。

ユニット調理や外出支援は、いちはつ・かきつばた合同で実施し、利用者様にも喜んでいただいたと感じる。中でも、ユニット調理は利用者様参加型での実行や新しいメニューでの実施、余暇委員会と連携して定期的にレクリエーションを実施できたことが好評だった。一方で家庭菜園の実践を計画したが、プランターでのミニトマト作りが限界だった。今後も利用者さまの個別情報をしっかりと把握しながら、双方向コミュニケーションが可能な活動の実施に向け工夫し、「また利用したい」施設を目指す。

## II. 医務

- ①ユニット職員との連携を強化し、利用者様の健康管理を充実させる。
- ②各ユニット会議に2回/年以上は参加し、情報交換を図る。  
多職種間での連携において調整役の役割を果たすよう努める。

日常的なユニット職員との連携はできており、緊急時対応も問題なかったと思うが、ユニット会議への参加が計画的に実行できなかった。他職種連携を担う部署として、現場職員との情報交換をより密にしていくことを今後の課題として取り組む。

## III. 調理

- ①全ての利用者さまに、美味しくかつ安全な食事を提供する。
- ②ソフト食を含めた、食事の質の向上に努める。  
→定期的(1・2か月毎)に勉強会を実施して、個々の技術・考え方をUPさせる。そのために、それぞれが課題を持って勉強し、みんな学び情報共有する。

食事の質の向上を目指しての定期勉強会は、人員不足により期の途中から開催できなくなった。しかし、職員間の連携が更に強まったこと、食事の質を落とさずに提供できたことは実感できた。今後は「職の楽しみ」が感じられる食事提供を目指し、個々のスキルアップも図

っていく。

#### IV. 総務

##### (1) 生活相談部門

- ①利用者さまとご家族さまが、安心して利用できる施設づくりの実施。  
→苦情・要望・事故・状態変化時等への迅速かつ適切な対応の実施。  
面会に来られないご家族さまへは毎月、生活の様子をご家族さまへ報告と面会時に生活の様子を報告。
- ②利用者さま・ご家族さま・居宅介護支援専門員・職員・外部の方等が相談しやすい窓口となる。  
→関わりを大切に行動する。  
毎日、ユニットを回り利用者さまや職員と関わっていく。  
【ショート】居宅介護支援専門員との連携を密にし、安全に支援できる情報の提供。毎月の実績報告時に、利用者状況の作成・報告を実施。

各居宅への情報提供については積極的にタイムリーに実施でき、新規利用者様の実績も増えている。今後も積極的に新規獲得を目指すと共に、施設内での各部門との連携や業務分担という課題に取り組む。

- 【特養】他職種と連携を密にし、利用者さま・ご家族さまの声を汲み取った支援の実施。

利用者様・ご家族様が安心できる施設づくりを目標に、ご家族様へ様子報告は適宜実施でき、利用者様個々へ積極的に向き合う姿勢は持ち続けられた。今後は職員間の連携役として、相談しやすい窓口になるよう取り組む。

##### (2) 経理部門

- ①新会計基準に沿った効率的な会計処理の実施。  
→税理士と連携を密にし、日常業務内での会計処理を実践。(会計についての残業を10時間/月以内に)
- ②間違いのない、効率の良い処理をするための体制作り。  
→請求・支払いのチェック機能の体制化と処理業務の平準化。(2人以上のチェックで、現状よりも3日前倒しの作業)

新会計基準に移行し、税理士と連絡を取りながら進めることができた。また残業の10時間/月以内もクリアしている。今後は、チェック体制の強化とスケジュール管理の検討を課題に取り組む。

(3) 介護保険請求部門

①毎月10日までの請求業務期間内に国保連へ正確に介護報酬請求を行う。

→入力ミスのないように相談員と連携を密にし、提供票とレセプトの合致確認・確実な伝送を行う。

②確実な入金処理の実施。

→毎月15日を期限とし、未入金利用者さまへ請求郵送しお知らせをする。

毎月期日までの請求はできたが、チェック体制強化の検討と利用者様の未収金管理の仕組みづくりが必要。より精度と上げながら効率よい取り組みを検討する。

(4) 施設管理部門

①各ユニットとの連携を図り、生活しやすい(働きやすい)環境を工夫する。

→月1回の施設設備の点検と半期に1度の備品棚卸しを実施、法人各種規程等を6月までの整備、周知徹底する。

②施設一体となって経費節減に取り組む。

→「やらされ感」から「考え、競い合う」節約を年度上半期に企画・実施。(実施状況を振替って下半期の実施を検討)

業務体制の変更など要因はあったが、目標に対する意識が欠如していたため、実行に至らず。具体的な行動が最優先。施設運営に全職員が参画できる仕組みづくりに取り組む。

5. 運営報告

I. 会議報告

会議名	開催頻度	参加者
幹部会議	月1回	幹部職員(11名)
		あやめ苑の運営に関わる議案全般に対して、幹部職員が各部署の代表として話し合った。
リーダー会議	月1回	ユニットリーダー(5名)、介護主任(2名)
		ユニット運営における諸問題やユニット間の調整や幹部会議への議案等の話し合う機会とした。
ユニット会議	月1回	各ユニット職員
		利用者さまのケアに対する検討会やユニット目標及び

	取り決めの機会として行った。	
各委員会会議	概ね月 1 回	各委員会職員
	下記委員会活動報告参照	
入所調整委員会	利用者退所時に随時	入所調整委員会メンバー
	利用者さまが退所し、居室が空室になった場合に各部署担当と話し合って次の入所の方を選定した。	

## II. 委員会及び係活動報告

各種委員会及び係活動により利用者さまにとって有益な「暮らしの場」となるよう職員全員でより良い施設を目指す。

- (1) リスクマネジメント委員会（介護事故の予防対策、苦情受付、対応、解決）

毎月委員会を開催し、介護事故の分析や苦情への対策を協議及び実施。

- (2) 医療行為安全対策委員会（介護職員による医療行為に対する安全管理、運営）

毎月委員会を開催し、介護職員によるたん吸引や経管栄養等の医療行為の体制作りや安全管理活動の推進に従事。

- (3) 余暇活動委員会（行事やレクリエーションの企画、実行）

毎月委員会を開催し、三大大行事であるあやめ苑夏祭り、あやめ苑敬老会、あやめ苑新年会の企画運営補助を担当。その他余暇の過ごし方について積極的に活動を実施。

- (4) 感染症対策・褥瘡予防委員会（感染症・褥瘡の予防、対策）

毎月委員会を開催し、感染症・褥瘡を予防するための感染対策マニュアル見直しや職員研修などの活動を推進。

- (5) 食生活向上委員会（食事に関する企画、提案、調整）

毎月委員会を開催し、利用者さまのより良い食事に向けて食べやすさや提供方法などについての協議及び実施。

- (6) 高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会（虐待行為、身体拘束の防止、対策）

毎月委員会を開催し、虐待防止に向けた取り組みと身体拘束者の廃止に向けた取り組みの協議及び実施。また、職員研修などの活動を推進。

(7) 災害対策委員会（災害時の施設対応及び備蓄品の立案、管理）

毎月委員会を開催し、災害時の対応マニュアルの整備及び備蓄品の立案、管理を実施。

(8) 介護手順委員会（介護手順の検討、提案、調整）

毎月委員会を開催し、あやめ苑のスタンダードとなる介護手順を検討し、マニュアルも作成や職員研修などの活動を推進。

(9) 介護用品管理係（介護用品の発注、管理）

介護用品の適正な発注、管理を実施。

(10) PC、ND ソフト管理係（パソコンでの記録の管理、運営、チェック）

NDソフトの変更等に応じて、内容のチェックや記録を管理。

(11) 敬老会企画係（敬老会の企画、運営）

敬老会の企画管理、運営について他職種と連携し、実行した。

(12) 新年会企画係（新年会の企画、運営）

新年会の企画管理、運営について他職種と連携し、実行した。

(13) ホームページ運営係（ホームページの更新、企画、運営）

ホームページの立ち上げ、更新をタイムリーに実施。

### Ⅲ. 行事運営

スケジュール	全体行事	ユニット行事
毎月	誕生月の方のリクエストメニューを月1回提供	誕生会
4月		花見
5月		芝桜観光
6月		あやめまつり

7月		七夕
8月	あやめ苑夏祭り	
9月	あやめ苑敬老会	
10月		紅葉・菊まつり観光
11月		
12月		クリスマス会、忘年会
1月	あやめ苑新年会	
2月		節分
3月		ひなまつり

#### IV. 地域活動

活動内容	スケジュール	内 容
第1回運営推進会議	4月15日	施設運営状況報告 他
第2回運営推進会議	6月15日	施設運営状況報告 他
第3回運営推進会議	8月19日	施設運営状況報告 他
第4回運営推進会議	10月14日	施設運営状況報告 他
第5回運営推進会議	12月19日	施設運営状況報告 他
第6回運営推進会議	2月12日	施設運営状況報告 他

#### 6. 研修報告

##### I. 外部研修

参加日	研 修 名	主 催	参 加 者
5月12日 ～13日	喀痰吸引50時間研修	秋田県長寿社会 振興財団	介護職員2名
5月29日 ～31日 6月12日 ～14日	平成26年度介護支援 専門員専門研修（課 程I）	秋田県長寿社会 振興財団	介護支援専門員1名
6月10日	横手市福祉施設栄養 士協議会研修会	横手市福祉施設 栄養士協議会	栄養士1名
6月11日 ～12日	喀痰吸引指導者養成 講習	秋田県長寿社会 振興財団	看護師1名
6月19日	平成26年度調理技術 研修	秋田県社会福祉 協議会	調理師1名

7月8日	介護施設等看護実務者研修	秋田県長寿社会振興財団	看護師1名
7月28日 ～29日	福祉保健施設・事業者等職員中堅研修	秋田県社会福祉協議会	介護職員1名
8月18日 ～22日	喀痰吸引の実技演習	秋田県長寿社会振興財団	介護職員2名
9月2日 ～3日	介護職指導者研修・育成の展開	秋田県社会福祉協議会	介護職員1名
9月18日	リーダーのしごと力 パワーアップ講座	フレッシュワーク AKITA	介護職員1名
10月22日	平成26年度社会保健施設・看護職員研修	秋田県社会福祉協議会	看護師1名
10月30日 ～11月4日	社会福祉法人施設長 認定講習	中央福祉学院	施設長1名
11月7日	平成26年度社会保健施設・事務職員研修	秋田県社会福祉協議会	事務員1名
11月11日 ～12日	平成26年度介護職員指導者研修(専門性)	秋田県社会福祉協議会	介護職員1名
1月14日	平成26年度調理技術研修	秋田県社会福祉協議会	調理師1名
3月1日	地域密着フォーラム in 村山	社会福祉法人千宏会	施設長1名 介護職員2名
3月6日	介護記録の理解と実践講習	秋田県社会福祉協議会	介護職員1名
3月10日 ～11日	平成26年度介護従事者講座 安全な介護	秋田県社会福祉協議会	介護職員1名
3月19日	「摩擦とずれ」を予防しよう講座	平鹿総合病院	看護師1名 介護職員2名

## Ⅱ. 内部研修

日	研修名	主催	参加者
11月26日	口腔ケア研修会	食生活向上委員会	職員18名
12月8日、 12月11日	事故報告に関する研修	リスクマネジメント委員会	職員28名



12月8日、 12月11日	夜間緊急時対応シュ ミレーション研修	リスクマネジメン ト委員会	職員 28名
2月12日	感染症対策・褥瘡予 防委員会職員研修	感染症対策褥瘡予 防委員会	職員 17名

## 第3部 ショートステイかがり火

### ケアプランセンターかがり火 事業報告

#### 1. 運営方針

地域に根差した「かがり火」としてのサービス体制の充実を図る。

昨年度は地域のショートステイを目標としてスタートし、新しい施設としてだけでなく、羽後町としての特性や利用者さまのニーズに試行錯誤しながら運営をしてきた。また併設の居宅介護支援事業所「ケアプランセンターかがり火」の認知度向上を目指し多方面へのアプローチを実施してきた。より羽後町の利用者さま、ご家族の要望に向き合い、かがり火ならではのサービス体制を構築していきたい。

#### 2. 経営報告

##### I. ショートステイかがり火の年間稼働率 95%以上の達成

平成26年度は、ショートステイは安定した運営とすることができた。年間稼働率は、目標の95%を超える事が出来ず残念だったが92.30%まで近づくことができた。また延べ人数では10,099人と1万人台の利用者数となった。今後も地域福祉への貢献を目指し頑張っていきたい。

##### II. ケアプランセンターかがり火の年間利用者担当率 95%以上の達成

ケアプランセンターは利用者確保に対して多方面でアプローチをし、新規件数では33件を達成した。しかし契約解除等もありまだまだ目標に近づけなかった。地域のニーズを掘り起しながら、新規契約に結び付けられる活動を考え行動し、来期こそ目標達成できるよう努力していきたい。

#### 2. 各部署報告

##### I. 介護部門

###### ①介護

来客者・外来者へ立ち止まり、100%の挨拶を実行する。

- ・職員の立ち振る舞いを徹底し、外来者の方々から好感をもたれるように目指す。
- ・利用者様の生活のリズムにあった生活ができるよう、サービスの提供

を行っていく。

入退所数が増加に伴い、業務量の増加など慌ただしくなり、職員個々の意識が薄らいでしまい、職員の意識づけを統一できなかった。今後は職員一人一人の意識付けと自覚、職種間の連携を図っていけるよう努力していきたい。

## ②機能訓練

笑顔で話しやすい環境をつくりだし信頼関係 100%を目指す。

一日の機能訓練者数、利用者全員を目指す。

- ・利用者個々のニーズを探り、話し合いながら目標を決め、維持や予防活動をする。
- ・集団や個人でも気軽にできる訓練や運動を通してリラクゼーション効果を目指す。
- ・本人並びにご家族に対しても、情報発信を進めていく。

笑顔でコミュニケーションを意識し取り組んだ。利用者さから声をかけられることが多くなり、信頼関係が徐々に出来てきた。利用者全員へは達成できていない。今後取り組み方法に検討が必要。

## II. 医務部門

看護師として状態の変化だけでなく、その人の生活に及ぼす影響を判断し生活の継続や質の向上の為にどのような看護や介護を提供するのが一番良いのか、アセスメントを基に対応しながら、家族や介護スタッフが安心して生活できるように支援する。

本人・家族から安心できる施設を目指す。

目標とした毎日一人一人のバイタル測定や体調チェックは毎日実施できた。体調不良者が出た場合は、各部門と連携し対応することが出来た。服薬等については誤薬することがないように最新の注意に心がけてきた。今後は多職種との連携を強めながら、利用者様の健康管理に努めていきたい。

## III. 食事部門

食を通して利用者様の健康（栄養）維持に努め、豊かな食生活を送れるように支援する。

- ・四季折々の行事食の実施、地域の食材や献立を取り入れ、食から日々の変化や季節の移り変わりを感じてもらえるようにする。
- ・食事から笑顔になってもらえるような楽しい食事作りを目指す。

- ・嗜好調査を年二回行い、個々の対応に心がける。
- ・一日一回は利用者様と話をするように心がける。

目標とした地域の食材を取り入れた献立が不十分だった。今後は地域の食材と共に、季節の食材に触れる事を取り入れたい。年二回の嗜好調査は入退所の関係もあり検討課題。厨房職員が昼食時意識的に利用者様の食事状況や声掛けを出来る事が出来たので、今後も継続していきたい。

#### IV. 相談員部門

これまで構築してきた地域の方々や各機関との信頼関係と、今後も質の高いサービスを提供することで「安心してまかされる施設」として地域に広め、新規利用者やリピーターの確保を目指す。

- ・一日の空所ベット数3床以内を目指し、空床案内等営業活動を行う。
- ・事業所間・家族との連絡調整や施設内部署とのハウ・レン・ソウを確実に実施し危機管理等に備える。
- ・相談や苦情窓口として申し出しやすい環境を整え、相互の信頼関係づくりに努める。
- ・送迎時のシートベルトの確認、乗降時の安全確認を徹底し安全運転に心がける。

利用者数の増加により、地域からの認知度が向上したと思われる。今後も地道に営業活動を進め、各機関から信頼できる施設を目指したい。また、各機関との連絡調整機会が多くなり、以前よりも連絡調整をしながら情報の共有が出来てきた。苦情等が発生した場合も即座に対応してきた。今後も継続していきたい。送迎時（利用者乗車なし）後方不注意による対物事故があったので送迎時は、より一層安全運転を心がけていきたい。

#### V. 居宅部門

利用者様や家族様に対して、生活の意向および生活状況を十分配慮しながら、公正中立な立場を保持する。また、「いつでも親身になり相談に乗って貰うことが出来る」という安心感を持って貰うことが出来る」という安心感を持って貰えるように支援する。

- ・介護保険法を守り、介護支援事業所としての業務を適切に行う。
- ・利用者様、ご家族様を類型化せず個別に捉え、悩みに真剣に向き合い自立のための支援を心がける。
- ・研修等に積極的に参加し、見聞を深め個々のスキルアップを図る。

年度初めより行政機関や医療機関などに営業活動を強化した。結果新規利用者獲得へ繋がった。しかし、利用者様の施設入所等もあり契約解除もあるので、なかなか目標件数を達成できない状況。今年度も営業活動を強化しながら新規利用者獲得を目指したい。

#### 4. 運営活動報告

##### I. 会議活動報告

会議名	開催頻度	参加者
部署長会議	月1回	幹部職員（8名）
	かがり火の運営に関わる議案全般に対して、幹部職員が各部署の代表として話し合った。	
介護会議	月1回	介護職員
	利用者さまのケアに対する検討会や目標及び取り決めの機会として行った。	
各委員会会議	概ね月1回	各委員会職員
	下記委員会活動報告参照	

##### II. 委員会活動報告

各種委員会活動により利用者さまにとって有益な「暮らしの場」となるよう職員全員でより良い施設を目指す。

- (1) リスクマネジメント委員会（介護事故の予防対策、苦情受付、虐待行為、身体拘束の防止、対策対応、解決）

毎月委員会を開催し、介護事故の分析や苦情への対策を協議及び実施。

- (2) レク委員会（行事やレクリエーションの企画、実行）

毎月委員会を開催し、行事の企画運営を担当。その他余暇の過ごし方について積極的に活動を実施。

- (3) 感染症対策・褥瘡予防委員会（感染症・褥瘡の予防、対策）

毎月委員会を開催し、施設内の環境整備のために清掃、環境美化活動の推進に従事。

- (4) 給食委員会（食事に関する企画、提案、調整）

毎月委員会を開催し、利用者さまのより良い食事に向けて食べやすさや提供方法などについての協議及び実施。

(5) 介護用品管理係（介護用品の発注、管理）

介護用品の定期的な発注業務や在庫管理を実施。

Ⅲ. 行事運営報告

スケジュール	全 体 行 事
毎月	誕生月の方のリクエストメニューを月1回提供
4月	花見ドライブ
5月	
6月	ショッピングドライブ
7月	七夕、第2回かがり火夏祭り
8月	夕涼み会
9月	敬老会
10月	紅葉ドライブ
11月	
12月	クリスマス会、忘年会
1月	新年会
2月	節分
3月	ひなまつり

5. 研修報告

Ⅰ. 外部研修

①ショートステイかがり火

日	研 修 名	主 催	参 加 者
5月12～ 15日	介護職員不特定者喀痰 等研修①	秋田県長寿社会 振興団	介護職員1名
5月19～ 23日	介護職員不特定者喀痰 等研修②	秋田県長寿社会 振興団	介護職員1名
5月26～ 27日	介護職員不特定者喀痰 等研修③	秋田県長寿社会 振興団	介護職員1名
5月31日	経口セミナー研修	全国栄養士協会	栄養士1名
6月16・23 日	脳卒中研修会	羽後病院	栄養士1名

7月7日	介護施設等看護実務者研修	秋田県社会福祉協議会	看護師1名
7月10～12日	介護支援専門員再研修①	秋田県長寿社会振興団	施設長1名
8月6～9日	介護支援専門員再研修②	秋田県長寿社会振興団	施設長1名
8月18～22日	介護職員不特定者喀痰演習	秋田県長寿社会振興団	介護職員1名
8月18～22日	介護職員等によるたん吸引等研修事業における指導看護師研修会	秋田県長寿社会振興団	看護師1名
9月4日	防ごう感染症	羽後町	栄養士1名
10月24日	知っておきたい高齢者のケア	県立協和リハビリセンター	介護職員1名
H27 2月18日	羽後町在宅医療多職種研修会	羽後町地域包括支援センター	訓練士1名
3月20日	介護保険事業者説明会	秋田県	施設長1名

②ケアプランセンターかがり火

日	研修名	主催	参加者
5/20・8/19 11/11・ H27/1/18	介護支援専門員勉強会	羽後町地域包括支援センター	2名
5月29～31日	介護支援専門員専門研修①	秋田県長寿社会振興団	1名
6月12～14日	介護支援専門員専門研修②	秋田県長寿社会振興団	1名
6月11日	羽後町キャラバン・メイト養成研修	羽後町地域包括支援センター	1名
6月16・23日	脳卒中研修会	羽後病院	2名
8月27日	秋田県高齢者虐待対応現任者研修会	(社)秋田県社会福祉士会	2名
9月4～6日	介護支援専門員専門研修①	秋田県長寿社会振興団	1名

9月15～ 17日	介護支援専門員専門研修②	秋田県長寿社会 振興団	1名
10月18日	県南地区居宅介護支援 事業所ミーティング	県南地区介護支 援専門員協会	2名
11月11日	介護支援専門員研修会	大曲仙北広域市 町村圏組合	1名
12月9日	在宅医療多職種研修会	湯沢雄勝医師会	1名
H27 2月18日	在宅医療多職種研修会	羽後町地域包括 支援センター	2名
3月20日	介護保険事業者説明会	秋田県	1名

## II. 内部研修

日	研 修 名	主 催	参 加 者
8月25日	高齢者虐待基礎研修	リスク委員会	職員 3名
11月14日	感染症予防について	給食・感染症委員 会合同	職員 5名
H27 2月15・24 日	ケース記録研修会	介護係	職員 14名